

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	44	宿毛	高等学校	課程	全
------	----	----	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1)学が意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する。 地域と連携した探究活動や体系的・専門的な学習により、幅広い知識や実践力、主体性を育み、地域社会に貢献する人材を育成する。
スクールのポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○総合学科の特色を理解し、進路実現に向けて探究心をもって努力することができる生徒 ○不得意なことにも自ら進んで挑戦し、最後まであきらめずに取り組める生徒 ○自他への興味関心を持ち続け、仲間と協力しながら課題に挑戦することができる生徒 ○部活動や生徒会活動、ボランティア活動等の校外の活動に積極的に取り組むことができる生徒 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○ICTを活用し、少人数授業を実践することで、変化する社会に対応できる学力を身に付けた生徒を育成します。 ○他者と協働し、地域社会に貢献していく意欲と態度を身に付け、社会の一員として広い視野を持って、世界に目を向けられる生徒を育成します。 ○学校生活全体を通して主体性と協調性を育み、自分を大切にしながら他者への配慮ができる生徒を育成します。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○進路希望や興味関心、習熟度に応じた教育課程により、2年次以降は「5つの系列」に分かれ、より専門的な学びを行います。 ○SDGsを意識した教科横断的な学びと、1年「産業社会と人間」や2・3年「自照(総合的な探究の時間)」での課題解決型探究活動を通して、職業観を育成し、地域理解の深化を図ります。 ○生徒が縦横に連携し、「自ら考え、行動できる集団」として主体的に取り組む姿勢を育成するため、学校行事や部活動、その他校外活動等に積極的に取り組みます。	

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 B 】	・例年目標としてきた国公立大学5名合格の達成や、アンケート等の2回目の結果がアップしている点など評価できる。 ・元の力、それなりの力を持った生徒が、それ以上の力をつけているのが分かる。 ・指標は下げなくてもよいと思う。
【社会性の育成】 評価 【 A 】	・校外ですれ違う生徒や、汽車通学で挨拶してくれる生徒の様子から、素直な子どもたちが育っていると思う。地域の目から見て、指標に出していない生徒の姿からも評価できる。 ・地域のイベントでも高校生の姿を見る機会が多い。 ・ボランティア活動の1年生の結果が低いのが気になる。
【チーム学校】 評価 【 B 】	・発表会は面白かった。中学校へのバス送迎があり、パンフレットの文字だけでは分からないものが分かった。 ・部活動加入率が9割以上と聞き安心した。高校が熱心に行っていることは日頃から感じている。 ・行事への保護者の参加が少ないと感じる。ホームページを充実させてほしい。 ・国公立や進路先をもっとアピールしてほしい。行きたいところに進学できるという情報が中学校にもほしい。

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	①学力定着把握検査におけるC層以上の生徒の割合 ・1年:R7.4月43.1%→R7.11月 50%以上 ・2年:R6.4月35.4%→R7.11月 50%以上 ②D3層の生徒の割合: 20%以下 (R6:21.4%) ③「授業以外でほとんど勉強しない」と回答する生徒の割合: 20%以下 (R6:24.4%) ④「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」の肯定的回答: 80%以上 (R6:85.1%)	・Allドリル「Monoxer」を効果的に活用し、学習習慣の定着と学力向上を図る。 ・学校設定科目「数学トレーニング」「英語トレーニング」、基礎補習、支援員補習で学び直しの機会を設定し、基礎・基本の内容を定着させる。 ・進学補習等で上位層の学力向上を図る。 ・オープンキャンパスへの参加促進、進路LH、企業見学会、進路別ガイダンス等を実施し、進路意識の高揚を図る。 ・資格取得により将来に向けた学習を意識させる。	B ①2年:R6.4月35.4%→ R7.4月46.9% ② 20.6% (1年22.4%、2年18.8%) ③ 13.4% (1年10.3%、2年15.6%、3年14.3%) ④ 91.5% (1年89.7%、2年93.8%、3年91.1%) ②1年入学時のD3層が多い。学習支援を継続し、基礎学力の定着を図る。	・「Monoxer」の効果的活用 ・「数トレ」「英トレ」、支援員補習で学び直しの機会を設定 ・進学補習等で上位層の学力向上 ・進路LH、進路別ガイダンス、大学訪問等で、進路意識の高揚を図る。 ・資格取得により将来に向けた学習を意識させる。 ・外部の検定試験やコンテストへの積極的な参加を促す。	B ①1年:R7.4月43.1%→R7.11月 64.9% 2年:R6.4月35.4%→R7.11月 48.4% ② 14.8% (1年12.3%、2年17.2%) ③ 18.5% (1年19.3%、2年9.4%、3年26.8%) ④ 87.4% (1年84.2%、2年90.6%、3年87.5%) ①2年C層以上がわずかに達成できなかったが、その他はすべて達成。特に、②1年D3層は大幅に減少。	・授業DPIによる授業改善 ・「数トレ」「英トレ」・学習支援員など手厚い支援の継続 ・「Monoxer」の効果的活用
	社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	①「自分という存在を大切に思える」の肯定的回答: 80%以上 (R6:87.0%) ②「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」の肯定的回答: 90%以上 (R6:95.6%) ③「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」の肯定的回答: 60%以上 (R6:65.6%)	・生徒会による仲間づくり活動を充実させる。 ・人権LHや人権学習会を通して、様々な考えや意見を知り、理解しようとする姿勢を育成する。 ・各教科、産社、総探のグループワークを通して、考え方の異なる相手と協働する機会を設ける。 ・長期休業中に地域貢献活動やボランティア活動に積極的に参加するよう促す。 ・ビジネスマナー等の学習を通して社会性を高める。	B ① 89.9% (1年98.3%、2年75.0%、3年96.4%) ② 97.3% (1年98.3%、2年95.3%、3年98.2%) ③ 51.6% (1年34.5%、2年45.4%、3年75.0%) ②全学年が高い結果。③1、2年が低いため、ボランティア活動への参加を促す。	・人権LHや人権学習会を通して、様々な考えや意見を知り、理解しようとする姿勢を育成する。 ・各教科、産社、総探のグループワークを通して、考え方の異なる相手と協働する機会を設ける。 ・学習して得た知識を、社会で実践できるように声掛けをしていく。	A ① 85.0% (1年87.7%、2年79.7%、3年87.5%) ② 96.2% (1年98.3%、2年92.2%、3年98.2%) ③ 62.3% (1年40.3%、2年60.9%、3年85.7%) ②全学年が高い結果。③2年は夏休み課題でボランティア活動へ参加し、大幅に改善。	・地域貢献活動やボランティア活動への早期からの意識醸成
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	①「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答: 65%以上 (R6:69.0%) ②地域・関係機関との連携回数: 5回以上 (R6:5回以上)	・産社、総探の目的を明確化し、日頃から意識させる。 ・各教科、産社、総探で、地域の方と交流したり、地域や社会の課題解決に向けて考えたりする機会を設定する。 ・学年、分掌、教科において、地域・関係機関と連携した活動を行う。	A ① 74.6% (1年81.0%、2年64.1%、3年78.6%) ② 3回 ②産社:宿毛JC、2年総探:宿毛市役所、3年総探:各所と連携。今後も地域・関係機関との連携を図る。	・産社、総探の目的を明確化し、日頃から意識させる。 ・各教科、産社、総探で、地域の方と交流したり、地域や社会の課題解決に向けて考えたりする機会を設定する。 ・学年、分掌、教科において、地域・関係機関と連携した活動を行う。	A ① 68.7% (1年70.2%、2年60.9%、3年75.0%) ② 5回以上 ②産社:宿毛JC、2年総探:宿毛市役所、3年総探:各所、地域住民との合同防災訓練、商い甲子園など、授業や行事で多くと連携。	・「産社」・「総探」のキャリア開発による取組の充実 ・各教科における地域や社会について考える機会の設定
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	①「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、話し合ったり、発表したりする機会がある」の肯定的回答: 90%以上 (R6:92.9%) ②「高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」の肯定的回答: 80%以上 (R6:77.4%)	・グループワークや発表の機会を充実させる。 ・各教科、産社、総探で、生徒が環境や社会の問題について考える機会を設定する。 ・新聞を読ませ、自分の考えをまとめさせる。(新聞タイム) ・教員同士が教科を越えて学び合う風土をつくる。(公開授業期間、授業デザインプロジェクト)	A ① 94.9% (1年94.8%、2年96.9%、3年92.9%) ② 84.3% (1年82.8%、2年84.3%、3年85.7%) ①②ともに達成。今後も取組を継続。	・グループワークや発表の機会の充実 ・各教科、産社、総探で、生徒が環境や社会の問題を考える機会を設定 ・新聞タイムの活用 ・教員同士が教科を越えて学び合う風土をつくる(公開授業期間、授業デザインプロジェクト)	B ① 98.4% (1年100%、2年96.9%、3年98.2%) ② 79.2% (1年70.4%、2年79.7%、3年87.5%) ①全学年が高い結果。②わずかに達成できず。学びを社会の問題へ結び付ける取組が必要。	・授業DPIによる授業改善 ・「産社」・「総探」のキャリア開発による取組の充実 ・各教科における環境や社会の問題について考える機会の設定

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化・特色化 ○総合学科の内容(系列、選択モデル等)やメリットを中学生や保護者に理解してもらうための広報活動の充実 ○学校生活の充実	①体験入学への参加者数: 81人以上 ②学校行事への保護者等参加者数: 81人以上 (PTA総会・進路説明会・総合学科発表会の延べ人数) ③「学校生活は充実している」の肯定的回答: 85%以上 (R6:88.8%) ④学校運営協議会等の実施回数: 年間2回	・学校行事や部活動の様子、各コースの特色ある取組などを、ホームページやInstagramで発信し、本校の良さを知ってもらう。 ・保護者等への案内等の配付物をすぐるでも配信し、行事等の周知と学校への関心を高める。 ・授業や部活動、校外での発表や作品展示など、生徒が認められ活躍する機会を多く設定する。	B ① 65人 ② 28人 ③ 95.0% (1年98.3%、2年92.2%、3年94.6%) ④ 1回 ②PTA総会28人。今後も保護者等への案内を工夫し、参加を促す。	・ホームページやInstagramで情報発信 ・保護者等への案内等の配付物をすぐるでも配信し、行事等の周知と学校への関心を高める。 ・授業や部活動、校外での発表や作品展示など、生徒が認められ活躍する機会を多く設定する。	B ① 65人 ② 80人 ③ 92.1% (1年89.5%、2年92.2%、3年94.6%) ④ 2回 ②P総会28人、進路説明会37人、発表会15人 中学校へ広報、横断幕設置、学校説明会等実施。	・地域や中学校への広報・発信力の強化 ・ホームページの充実
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	①不祥事発生件数: 0件 ②校内研修の実施回数: 各学期1回 ③不祥事防止委員会の実施回数: 年間3回	・「不祥事防止のためのチェックリスト」を活用する。 ・配付資料や送付書類など、複数人で確認する。 ・個人情報の取り扱いに注意する。 ・報連相を徹底する。(気軽に相談できる環境づくり) ・研修に積極的に参加し、倫理観堅持に努める。	A ① 0件 ② 2回 ③ 2回 ②ハラスメント、飲酒運転等について研修。不祥事防止強化月間を6月に設定。	・「不祥事防止チェックリスト」の活用 ・送付書類などを複数人で確認する。 ・個人情報の取り扱いに注意する。 ・報連相を徹底する(気軽に相談できる環境づくり) ・研修に参加し、倫理観堅持に努める。	B ① 1件 ② 3回 ③ 5回 ②ハラスメント、飲酒運転、校内ルール等について研修。不祥事防止強化月間を6月・12月に設定。	・チェック体制の見直し ・定期的な啓発の継続 ・意見を述べやすく、相談しやすい職場の雰囲気づくり
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○時間の有効活用 ○業務の効率化	①ノー残業デー週1回の設定を 継続 ②会議タイマーの設定: 職員会議・学年会・分掌会・教科会で設定 ③月45時間を超える時間外勤務を年間通して2ヶ月以上おこなった教職員: 10人未満 (R6:9人)	・会議タイマーの設定時間に終了できるように、日頃から情報共有を図る。 ・チャットを活用してペーパーレス化を促進する。 ・業務の効率化ができるようなシステムづくりに取り組む。 ・有給休暇の取得を促す。(取りやすい環境づくり)	B ① 継続中 ② 設定または短時間で終了 ③ 2人 (4~8月) ③定時制があり夜遅くまで在籍できる環境のため、長時間在籍が日常化。抜本的な改革が必要。	・会議タイマーの設定時間に終了できるように、日頃から情報共有を図る。 ・ペーパーレス化を促進する。 ・業務の効率化ができるシステムづくり ・有給休暇の取得を促す。(取りやすい環境づくり) ・全日制職員室の施設時間の設定	A ① 継続 ② 職員会議・学年会・分掌会・教科会で設定または短時間で会議終了 ③ 3人 ③11月から全日制職員室の施設時間を設定。長時間勤務者なしで、大幅に改善。	・業務の分担・効率化 ・ノー残業デー・会議タイマー・職員室施設など時間の有効活用を意識した取組の継続